



日本という名前はいつついたの

大化の改新のころ「日本」とついた

日本は、大和地方にあった大和政権によって、国家が統一されたことから、「やまと」「おおやまと」といわれていました。そのころ、中国が日本のことをさして、「倭」と書いたため、倭（やまと）、大倭（おおやまと）という文字があてられたのです。

645年の大化の改新のころ、「日出づる処」の意味で、日本（ひのもと）というようになりました。このころ、「日本」が、正式の国の名前に定められたようです。

奈良時代以後は、日本という字を「にっぽん」または「にほん」と読むようになったのです。

1889（明治22）年、大日本帝国憲法が制定され、「大日本帝国」が国の名前になりました。その後、1946（昭和21）年、日本国憲法が公布され、「日本国」が国の名前になったのです。

「日本」の読み方は、「にっぽん」なのか「にほん」なのかいろいろ論争がありますが、正式に決められた読み方はありません。

日本を表すいろいろないい方

古くから、日本を表す美しいいい方があります。「豊葦原（とよあしはら）」「瑞穂（みずほ）の国」「和国（わこく）」「扶桑（ふそう）」「秋津島（あきつしま）」「大和（やまと）」「日の本」「大八州（おおやしま）」「神州」「本邦」「本朝」などといわれてきました。多くの和歌や、物語などにも使われてきました。

（監修・青木 国夫）

